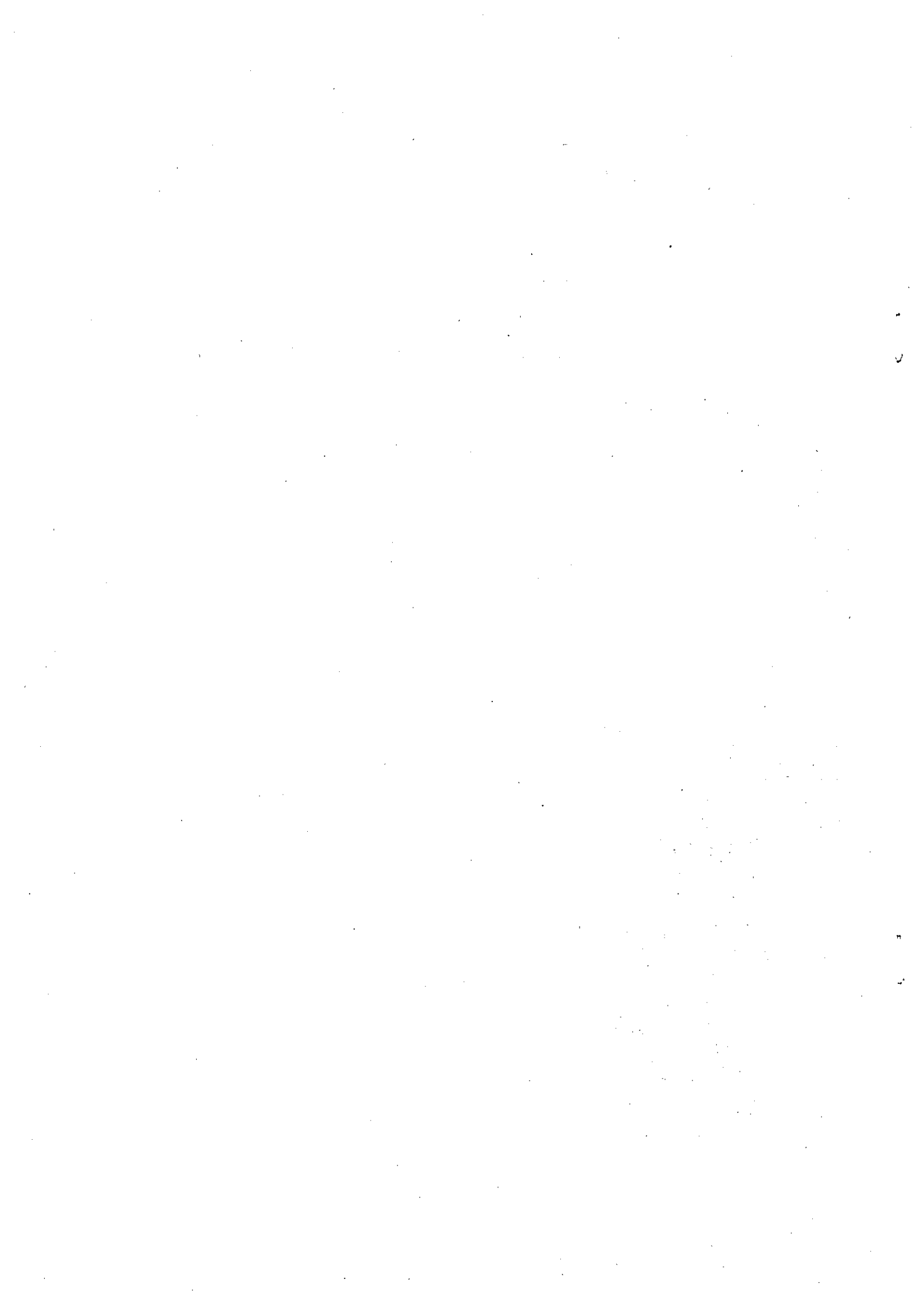


地域振興県土警察常任委員会資料

(平成28年1月21日)

- 1 山陰版DMO「山陰観光推進機構(San-in Tourism Organization)」
(仮称)の設立について
【観光戦略課】・・・1ページ
- 2 ユネスコ世界ジオパーク道府県連携イベントの実施について
【観光戦略課】・・・2ページ
- 3 アシアナ航空米子ーソウル国際定期便の平成27年年間利用実績
について
【観光戦略課】・・・3ページ
- 4 第4回まんが王国とっとり国際マンガコンテスト表彰式の開催に
ついて
【まんが王国官房】・・・5ページ
- 5 鳥取砂丘コナン空港「空の駅化」に向けた取組状況について
【まんが王国官房】・・・6ページ

観光交流局



山陰版DMO「山陰観光推進機構（San-in Tourism Organization）」（仮称）の設立について

平成28年1月21日

観光戦略課

鳥取・島根両県では、外国人観光客の山陰地方への誘客や、山陰ブランドの確立などを旨とし、新たな官民連携組織（山陰版DMO）を本年4月に設立すべく、準備を進めています。

1 組織の概要

（1）方向性

- 既存の両県連携組織（山陰国際観光協議会・山陰観光推進協議会）を統合・発展させ、インバウンド事業を中心に、両県の官民が連携した組織を目指す。
- 民間出身者で観光ビジネスに精通した方をトップに招聘し、鳥取・島根両県職員及び民間からの派遣職員により、独立した組織を設置する。

（2）設立時期 平成28年4月を予定

（3）構成団体 鳥取県、島根県、旅行会社、交通事業者、旅館等観光事業者、金融機関、その他当機構の取組に賛同いただける企業等

（4）主な機能・実施事業（案）

- ①山陰の観光組織の核として、両県内観光組織の調整・合意形成を行う機能
- ②「山陰」ブランドの確立
- ③インバウンド戦略の策定
- ④海外向けプロモーション（旅行会社・メディア招請、海外旅行博への出展など）
- ⑤国内向けプロモーション（観光情報説明会の開催、旅行商品の造成支援など）
- ⑥受入体制整備（おもてなし研修会の開催、山陰地域限定特例通訳案内士の養成研修など）

（5）事業規模 160百万円程度を想定（財源：各県がそれぞれ1/2負担）

（6）事務所 米子市内（米子駅周辺）を予定

2 その他

- 観光庁が、日本版DMOの候補となり得る法人を「登録」する制度を平成27年12月より開始。山陰版DMOも登録に向けて準備中。
- 1月18日に、山陰両県内で本格的なDMO第1号となる「一般社団法人鳥取中部観光推進機構」が設立された。（「とっとり梨の花温泉郷広域観光協議会」を母体として設立。）

ユネスコ世界ジオパーク道府県連携イベントの実施について

平成28年1月21日
緑豊かな自然課
観光戦略課

平成27年11月の世界ジオパークのユネスコ正式事業化決定後、平井知事が世界ジオパーク関係道府県に声掛けをし、『ユネスコ世界ジオパーク道府県応援団』が結成される見込みとなり、連携イベントを随時実施する運びとなったため、その概要を報告する。

1 ユネスコ世界ジオパーク道府県応援団の結成について

(1) 関係道府県

北海道(洞爺湖有珠山ジオパーク・アポイジオパーク)、新潟県(糸魚川ジオパーク)、京都府・兵庫県・鳥取県(山陰海岸ジオパーク)、島根県(隠岐世界ジオパーク)、高知県(室戸ジオパーク)、長崎県(島原半島ジオパーク)、熊本県(阿蘇ジオパーク) 以上8地域9道府県

(2) 結成の趣旨

平成27年11月のユネスコ総会で、ジオパークのユネスコ正式事業化が決定し、今後、ジオパークの注目度も上がっていくことが期待される。ユネスコ世界ジオパークの発展とそのPRを図るため、ユネスコ世界ジオパーク関係道府県による「ユネスコ世界ジオパーク道府県応援団」を結成し、各ユネスコ世界ジオパークの取組を支援するとともに情報発信を進める。

2 今後、実施する連携イベント

(1) ユネスコ世界ジオパーク道府県応援団記念キャンペーン

ジオパークのユネスコ正式事業化決定によるジオパークの注目度アップを期し、首都圏においてユネスコ世界ジオパーク道府県応援団の結成と、記念トーク、パネル展示等を行い、情報発信に資する。

①日 時 平成28年2月2日(火)

②場 所 東京国際フォーラムロビーギャラリー(東京都千代田区丸の内)

③出席者 兵庫県:井戸敏三知事、鳥取県:平井伸治知事(世話役)、島根県:溝口善兵衛知事、高知県:尾崎直正知事 ※その他の道府県知事は調整中

④イベント概要

- ・さかなクン(日本ユネスコ国内委員会広報大使)お祝い記念トーク
- ・関係道府県知事等による挨拶・PR
- ・応援団結成宣言
- ・記念撮影、フォトセッション
- ・記念品配布
- ・パネル展示

(2) ユネスコ正式事業化決定記念フェア

1月下旬以降に、各道府県アンテナショップでユネスコ正式事業化決定記念フェアを開催する。

※各道府県と調整中。

(3) ユネスコ世界ジオパーク正式事業化決定記念シンポジウム

ジオパークのユネスコ正式事業化の意義について理解を深めるとともに、国内のユネスコ世界ジオパークの活動報告を通して、地域資源を活かした今後の取組の方向性などについて考察する。

①日 時 平成28年2月14日(日)

②場 所 ホテルニューオータニ鳥取(鳥取市)

③概要

第1部 シンポジウム 午後1時~4時50分

テーマ(仮題) ユネスコ正式事業化と地域資源の活用

ア) 基調講演① 仮題 「世界ジオパークのユネスコ正式事業化」

講師 ニコラス・ゾウロス氏(世界ジオパークネットワーク委員)

イ) 基調講演② 仮題 「地域資源を活かした地域振興」

講師 山田桂一郎氏(JTIC.SWISS 代表、観光庁の観光カリスマに選定)

ウ) 各世界ジオパークの活動状況報告 国内のユネスコ世界ジオパーク活動者

第2部 世界ジオパークのユネスコ正式事業化決定祝賀会 午後5時30分~7時30分

アジアナ航空米子ーソウル国際定期便の平成27年年間利用実績について

平成28年1月21日
観光戦略課

アジアナ航空米子ーソウル国際定期便の平成27年の年間利用実績は、平成13年からの就航以来、過去最高となる35,630名が搭乗（韓国人搭乗者数も過去最高の28,636名）し、年間搭乗率は過去3番目の高水準となる69.9%を記録しました。

1 平成27年年間利用実績 [() 内は前年実績]

提供座席数	搭乗座席数	搭乗率
50,944席	35,630席	69.9%
(51,446席)	(25,749席)	(50.1%)

※月別内訳等の詳細は、別紙「利用実績の推移」参照。

2 概況

- ・年間搭乗者数及び年間搭乗率は、前年と比較し9,881名及び19.8ポイントの大幅増
- ・国籍別搭乗人数は、韓国人28,636名(対前年12,692名増)、日本人6,440名(対前年2,735名減)。

3 要因等

- ・円安に加え、当県及び山陰国際観光協議会等でのプロモーション効果により、年間を通じて韓国人搭乗者数が好調だった。平成27年1月から利用実績が向上し始め、2月には月別搭乗率(88.7%)及び韓国人搭乗者数(3,052名)の過去最高を達成した。6月に韓国で発生したMERSの影響により、インバウンド・アウトバウンドともに一時低迷したが、10月以降3ヶ月連続で70%越えを達成するまでに回復した。

別紙 利用実績の推移

1 平成27年年間搭乗人数

※下段カッコ内は前年同期実績

	提供座席数	搭乗座席数	搭乗者			搭乗率
			日本人	韓国人	その他	
1月	4,342席 (4,322席)	3,331席 (2,231席)	478名 (647名)	2,795名 (1,486名)	58名 (98名)	76.7% (51.6%)
2月	4,100席 (3,912席)	3,638席 (2,297席)	537名 (886名)	3,052名 (1,413名)	49名 (18名)	88.7% (58.7%)
3月	5,076席 (4,222席)	3,694席 (1,671席)	870名 (877名)	2,775名 (747名)	49名 (47名)	72.8% (39.6%)
4月	4,032席 (4,214席)	3,288席 (1,695席)	479名 (645名)	2,762名 (997名)	47名 (53名)	81.5% (40.2%)
5月	4,608席 (4,310席)	2,734席 (1,677席)	538名 (528名)	2,144名 (1,114名)	52名 (35名)	59.3% (38.9%)
6月	4,106席 (4,342席)	1,818席 (2,427席)	452名 (913名)	1,347名 (1,403名)	19名 (111名)	44.3% (55.9%)
7月	3,872席 (4,158席)	2,420席 (2,382席)	273名 (689名)	2,105名 (1,663名)	42名 (30名)	62.5% (57.3%)
8月	3,816席 (4,596席)	2,513席 (2,621席)	363名 (1,023名)	2,107名 (1,536名)	43名 (62名)	65.9% (57.0%)
9月	4,234席 (4,286席)	2,232席 (1,983席)	570名 (709名)	1,629名 (1,249名)	33名 (25名)	52.7% (46.3%)
10月	4,190席 (4,412席)	3,514席 (2,474席)	577名 (910名)	2,892名 (1,520名)	45名 (44名)	83.9% (56.1%)
11月	4,062席 (4,298席)	3,197席 (1,936席)	685名 (684名)	2,458名 (1,217名)	32名 (35名)	78.7% (45.0%)
12月	4,506席 (4,374席)	3,251席 (2,355席)	618名 (684名)	2,570名 (1,599名)	63名 (72名)	72.1% (53.8%)
計	50,944席 (51,446席)	35,630席 (25,749席)	6,440名 (9,175名)	28,636名 (15,944名)	532名 (630名)	69.9% (50.1%)

2 過去の年間搭乗人数

※平成13年は、4月～12月までの就航実績

年	提供座席数	搭乗座席数	搭乗者			搭乗率
			日本人	韓国人	その他	
13年	32,978席	24,892席	20,150名	4,625名	117名	75.5%
14年	45,280席	32,241席	26,152名	5,927名	162名	71.2%
15年	44,744席	28,011席	16,096名	11,722名	193名	62.6%
16年	54,094席	34,723席	23,658名	10,743名	322名	64.2%
17年	56,142席	29,283席	18,770名	10,228名	285名	52.2%
18年	58,692席	33,374席	19,899名	13,068名	407名	56.9%
19年	55,988席	29,306席	17,268名	11,668名	370名	52.3%
20年	49,850席	31,309席	19,532名	11,462名	315名	62.8%
21年	52,346席	31,056席	21,117名	9,579名	360名	59.3%
22年	51,238席	32,470席	18,396名	13,627名	447名	63.4%
23年	51,767席	29,959席	20,419名	9,193名	347名	57.9%
24年	50,870席	27,460席	18,192名	8,844名	424名	54.0%
25年	51,972席	26,108席	13,763名	11,819名	526名	50.2%
26年	51,446席	25,749席	9,175名	15,944名	630名	50.1%
27年	50,944席	35,630席	6,440名	28,636名	532名	69.9%

第4回まんが王国とっとり国際マンガコンテスト表彰式の開催について

平成28年1月21日
まんが王国官房

「食」をテーマに実施した第4回まんが王国とっとり国際マンガコンテストの表彰式を次のとおり開催します。

併せて、本県出身の人気声優・近藤孝行さんらによる受賞作品のアテレコやトークショーも行います。(入場無料)

1 日 時

平成28年2月13日(土) 15:00~16:30

2 場 所

米子全日空ホテル2階「飛鳥」(米子市久米町53-2)

3 内 容

第1部 コンテスト表彰式 15:00~15:30

主催者・来賓あいさつ

受賞作発表・表彰状授与

最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員特別賞3点、U-15賞3点

受賞者スピーチ、審査員講評

第2部 受賞作品公開アテレコ&声優トークショー 15:30~16:30

(1) 受賞作品公開アテレコ

<アテレコ出演者>

声優・近藤孝行さん(鳥取県出身)

「テニスの王子様」大石秀一郎役のほか出演多数

山田美鈴さん(境高校2年)

2015年全日本声優コンテスト鳥取大会 優勝

2015年全日本声優コンテスト本大会(東京) 優秀賞 ※準優勝相当

(2) 声優トークショー

声優・近藤孝行さん × 聞き手・大田祐樹さん(BSSアナウンサー)

4 その他

今回の受賞作品と最終選考作品を掲載した作品集を2月13日(土)から山陰の書店及びコンビニエンスストア等で発売予定

鳥取砂丘コナン空港「空の駅」に向けた取組状況について

平成 28 年 1 月 21 日
交 通 政 策 課
空 港 港 湾 課
まんが王国官房

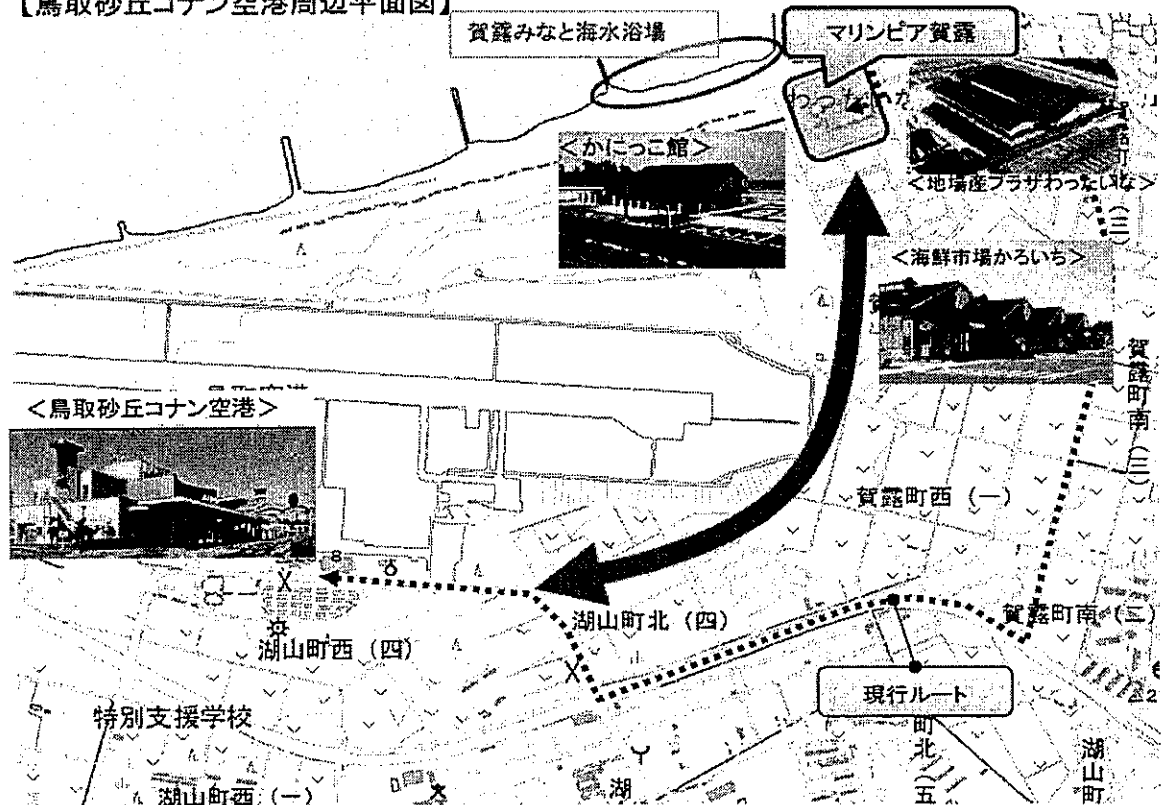
鳥取砂丘コナン空港の「空の駅」化については、これまで空港を核とした賑わいや「人・もの・情報」の交流の活発化に向けた調査を行うとともに、空港関係者や地元自治会、学生等との意見交換を行いながら検討を進めてきているところです。

その中で鳥取空港と鳥取港を結ぶ二次交通の試験運行や連絡道路の検討、情報発信機能の強化や愛称化にふさわしい空港装飾など、優先して整備等が必要なものについては既に実施しているところですが、引き続き、交流創出のための地域の拠点として空港を中心とした一定の範囲を更に魅力あるものとし、空港利用者だけでなく一般の観光客等も含めて航空便・空港施設の更なる利用促進と交流人口の拡大等を図る取り組みを推進していきます。

1 基本的な考え方

- ① 鳥取砂丘コナン空港を「空の駅」、鳥取港を「海の駅」として位置づけ、空港利用圏域内の集客施設も含めた連携の強化
⇒ 両港の魅力発信、両港を結ぶアクセスルートや二次交通を強化
- ② 鳥取砂丘コナン空港の更なる利用促進に向けた、国内線ターミナル及び国際会館の連携・利活用の向上
⇒ 空港施設の一体化を進め、飲食・物販施設をはじめとするターミナル機能の強化と賑わい創出を充実。
- ③ 鳥取砂丘コナン空港を核とした周遊観光地等への移動手段の実態を踏まえた二次交通等の利便性向上
⇒ 空港を核とする二次交通と空港アクセスの充実。
- ④ 愛称化を踏まえた各施策との連携
⇒ 空港施設内や空港周辺のコナン装飾等による魅力づくりによる空港利用者の増加や観光地・観光資源等のアピール。

【鳥取砂丘コナン空港周辺平面図】



2 これまでの取組状況

(1) 鳥取砂丘コナン空港と鳥取港との連携強化

- ① 鳥取砂丘コナン空港と鳥取港をつなぐ連絡道路の整備
⇒ 平成 27 年度は道路整備に向けた詳細設計を実施。平成 28 年度は用地測量や関係機関との協議等を推進し、一部区間において工事着手を予定。
- ② 両港を結ぶ「鳥取砂丘コナン空港周遊バス」の試験運行（平成 27 年 4 月 18 日から平成 28 年 3 月 27 日までの土日祝日）
⇒ 利用実績（12 月末時点）：1,934 人

(2) 空港施設の利活用向上

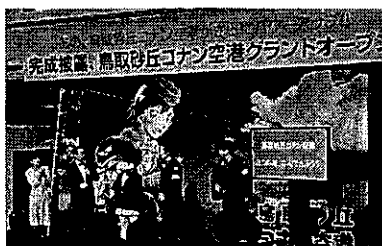
- ① 空港施設案内機能の強化
二次交通や観光・空港施設の案内、外国通貨両替業務や外国人旅行者等に対応可能なスタッフを配置（平成 27 年 8 月から平成 28 年 3 月末までの土日祝日及びチャーター就航時）※外貨両替は平日も実施
⇒ 案内件数：924 件、外貨両替件数：13 件（12 月末まで）
※米ドル、ユーロ、中国元、台湾ドル、香港ドル、韓国ウォン
- ② 出店トライアル支援
大型連休や空港イベント、国際チャーター便就航時に飲食・物販の仮設店舗を設置する際の経費の一部を支援し、出店トライアルを契機とする継続的な店舗開設への働きかけ
【出店者】：すなば珈琲、コナン・クリエイション、鳥取市観光コンベンション協会、湯村温泉観光協会、空の駅女子会
- ③ 国際会館の開館時間を延長（7 月 10 日から閉館時間を午後 9 時まで延長（従前は午後 6 時まで））
⇒ 国際会館利用者数（12 月末時点）：約 47,700 人（前年同比：約 230%）
- ④ 多目的ルームの設置（平成 28 年 2 月完成予定）
外国人旅行者やサイクリストの更衣等に利用
- ⑤ 情報発信機能整備（平成 28 年 3 月完成予定）
デジタルサイネージを設置し、二次交通情報や観光情報等の情報発信機能を強化
- ⑥ 空港駐車場の拡張（平成 28 年 3 月完成予定）
142 台分を増設し、665 台分の駐車場を確保

(3) 二次交通等の整備

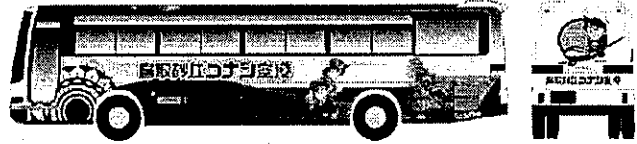
- ①（再掲）鳥取砂丘コナン空港周遊バスの試験運行（平成 27 年 4 月 18 日から平成 28 年 3 月 27 日までの土日祝日）
⇒ 利用実績（12 月末時点）：1,934 人
- ② 鳥取中部二次交通ループバスの試験運行（平成 27 年 4 月 29 日から平成 27 年 11 月 23 日までの土日祝日、夏休み）
⇒ 利用実績：約 7,500 人
- ③ 空港連絡バス（倉吉方面）を北栄町青山剛昌ふるさと館まで延伸運行（平成 27 年 5 月 18 日から）
- ④ 空港レンタカー利用助成（空港愛称化キャンペーン：平成 28 年 3 月末まで）
⇒ 利用実績（12 月末時点）：438 台

(4) 愛称化に伴う空港装飾等

コナン装飾整備や空港内周遊性向上に取り組み、12 月 5 日に空港装飾グランドオープンを実施



- ① 謎解きイベント「鳥取砂丘コナン空港ミステリー 黄金の二十世紀梨を追え」を土・日、祝日に実施中（12月5日から）
⇒ 参加者数：約1,100人（1月11日時点）
- ② 空港連絡バスヘラッピング実施（平成27年5月18日から）



- ③ 愛称化に伴う道路標識等の変更やPR看板を設置
- ④ 空港PR映像(空港オリジナル映像、海外プロモーション向け映像)の作成
空港オリジナル映像は国際会館内で放映中（12月5日から）、海外プロモーション向け映像は平成28年3月完成予定
- ⑤ 記念撮影用ARアプリの作成・設置（平成28年3月完成予定）

3 今後進めていく取組

これまでの取組の検討・検証結果をもとに以下の取組を更に進めていく。

(1) 鳥取空港と鳥取港との連携強化

- ① 両港を結ぶ二次交通手段の確保と連絡道路への機能付加（多様な移動手段、空港ならではの眺望体験など）の検討
- ② 両港の情報発信と相互利用の促進など交流人口の更なる拡大に向けた取組

(2) 空港施設の利活用策

国内ターミナルビルと国際会館の一体化の検討

空港機能や情報発信機能の強化、飲食・物販等の充実、施設の利活用策などを一体化整備に向けた検討を進めていく。

